

教師権威の概念化

二宮 克美

首藤 敏元

(愛知学院大学情報社会政策学部)

(埼玉大学教育学部)

【問題および目的】 二宮・首藤(1998,1999)は、Smetana & Bitz(1996)の研究をもとに、学校場面における教師権威(authority)の概念について、わが国の小学5年、中学1年と3年、高校2年および大学生を対象に検討してきた。その結果、道徳(他者の権利や福祉に関係する問題)と文脈的慣習(道徳、慣習、個人の混合領域の問題)では教師の権威下に、慣習(社会組織を成立させ、社会的関係の調整に関係する問題)、個人(行動の影響が行為者にしか及ばない問題)および自己管理(自己の健康や安全などに関係する問題)では個人の権限下にあると判断し、学年進行にともないその傾向が増大することを明らかにした。さらに、教師みずからの教師権威の概念化や社会人の教師権威についても検討した(1999)。教師や社会人は、中高校生や大学生よりも個人的権限を認めていないこと、文脈的慣習で教師は教師権威を一番高く認めていることなどを明らかにした。

今回は、教師権威や個人的権限に関する測度間の関連を検討した結果を中心に報告する。

【方法】 <調査項目> Smetana & Bitz(1996)の研究を参考に、道徳(子ども同士のいじめ)、慣習(給食や食事などを手づかみで食べる)、個人(髪形「茶髪・長髪」などを変える)、文脈的慣習(トイレに行くのに許可なしで勝手に教室から出る)、自己管理(健康を害するような食品ばかりを食べる)の5領域とした。各領域について、次の5つの質問をした。()内は得点である。

①行為の悪さの悪さ評定: このことは、とても悪い(3)、どちらともいえない(2)、悪くない(1)の3件法。

②違反行為の頻度: こうしたことは、よくある(5)から全くない(1)までの5件法。

③規則自体の評価: 各行為を禁止する規則を作ること自体が、とても良い(5)からとても悪い(1)までの5件法。

④教師権威の正当性: 各行為について、教師が規則を作ることが良いか悪いかの2件法。

⑤個人的権限の評定: 各行為を子どもが自分で決められるか決められないかの2件法。

<被調査者> 愛知県内の小学5年96名(男52名、女44名)、中学1年169名(男84名、女85名)と

3年174名(男79名、女95名)、高校2年134名(男65名、女69名)、大学2年129名(男59名、女70名)、小中学校の教師130名(男66名、女64名)および社会人122名(男17名、女105名)の総合計954名(男422名、女532名)である。

【結果および考察】 紙幅の関係で、道徳と個人の領域の男女込みの各測度間の相関係数を示した。主要な結果は次のとおりである。

(1)すべての領域で、行為の悪さ評定(善悪判断)と規則自体の評価との間には正の相関がある。つまり違反行為を悪いと考えているほど、規則を作ることには良いと考えている。

(2)すべての領域で、規則自体の評価と教師権威の正当性との間には負の相関がある。規則を作ることには良いと考えているほど、教師権威を認めていない。教師権威正当性を基準変数とし、他の5つの測度を説明変数として重回帰分析をした結果も、規則自体の評価が有意な負のβ係数(-.35~-.49)を一貫して示していた。

(3)すべての領域で、善悪判断と教師権威正当性との間には負の相関がある。

(4)教師権威正当性と個人的権限の間には、文脈的慣習、道徳、個人の領域で有意な負の相関が認められる。

表1. 各測度間の相関係数(道徳領域)

	①	②	③	④	⑤
①善悪	——	-.10**	.33***	-.27***	.08*
②頻度	-.02	——	-.22***	.15***	-.16***
③規則	.18**	-.08	——	-.43***	.12***
④権威	.16*	.09	-.57***	——	-.14***
⑤権限	.13*	-.10	.05	-.04	——

表2. 各測度間の相関係数(個人領域)

	①	②	③	④	⑤
①善悪	——	-.40***	.54***	-.42***	.34***
②頻度	-.18**	——	-.35***	.20***	-.22***
③規則	.47***	-.16*	——	-.46***	.28***
④権威	.30***	.04	-.51***	——	-.29***
⑤権限	.10	.00	.10	-.13*	——

(右上: 小中高大学生、左下: 教師社会人)

■付記: 本研究は平成9年度科研費基盤研究(c)課題番号09610104の一部として実施したものである。